

# 第1章 校内研修の取組

## 1 研究の概要とまとめ

### 1 研究主題

一人ひとりが輝くための「主体的・対話的で深い学び」の獲得に向けて  
～ ポジティブな行動支援による組織的な取組を通して ～

### 2 研究の目的

本校では、平成31年度から全教職員で「ポジティブな行動支援 (PBIS/PBS)」に取り組んでいる。これまでに、GB (Good behavior) カードをツールとしながら、一人ひとりのできている行動やできそうな行動に着目し、称賛・承認をしてきた。その結果、日常の生活の中で、適切な行動やよりよい行動をしようとする生徒が増加するなどの効果が感じられるようになってきた。そこで、今年度は、授業にもポジティブな行動支援の視点を積極的に取り入れ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにする力を身に付けさせたい。新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている中、教師が、生徒のポジティブな行動を促すための手立てや支援を明確にした授業を行うことが、結果として、一人ひとりが「主体的・対話的で深い学び」を獲得し、その能力を自ら開花させ、輝いた人生が送ることができる一助になると考えている。

### 3 研究の内容

(1) GB (Good behavior) カードの全校での取組の継続。

(2) 授業におけるPBISの取組の実践と振り返りシートの共有を図る。

授業で実施している手立てや支援の内容を整理し、それらをより意識した授業を行うことで、生徒のポジティブな言動を引き出しやすくなるのではないかと考えた。そこで、各教科で「①学習活動で生徒にさせる・求めるポジティブ行動、②生徒のポジティブ行動を促すための教師の手立て、③生徒のポジティブ行動に対する教師のフィードバック」の視点でまとめ、日々の授業を行った。その後、④教員の変化(授業の工夫)、⑤教員が感じた生徒の変化、⑥今後の課題をまとめた。(資料1)

### 4 まとめと今後の課題

(1) PBISを始めた当初は、「適切な行動を褒める、称えることで、望ましい行動を多くし、不適切な行動を減らしていく。」という応用行動分析学の理論に従って、よい行いをしたときに、GB (Good behavior) カードに教師が褒める言葉を書いて渡していた。昨年度は、月に1回、生徒同士がクラスの仲間のよい行いを互いに書き、交換する取組を行った。今年度は、行事終了後すぐに記入したり、学年一斉に記入する時間を確保したり、部活動の大会前に顧問が記入して渡したりするなど、さらに幅広い取組になっている。これらの取組の結果、全国・県の学習状況調査の「自分にはよいところがある」という問いに、約8割の生徒が肯定的な解答をしており、PBISの効果を感じ取ることができた。今後も、望ましい行動をしたときには称賛・承認をし、望ましくない行動をしたときには行為を指導するという姿勢を継続し、生徒の自尊感情や自己肯定感を高めていきたい。

(2) 先生方のこれまで経験に基づく教育観・指導観を共有し、上記の①②③を意識して授業ができたことは、その後の実践や生徒との関わりに好影響をもたらしたと思われる。今回の取組を通し、生徒のできていない部分ではなく、できている部分や過程に着目するようになった教職員、他者を認め、褒める活動を取り入れる機会が増加した教職員、導入の仕方や指示の出し方などを工夫した教職員、めあてをより意識した授業展開をするようになった教職員が増えた。また、自ら興味・関心をもち、主体的に学ぼうとする生徒も増えてきた。しかし、意見交換の場で自分の考えを伝えることが苦手な生徒への支援、発想力や発表の仕方のレベルアップの方法、授業のどの場面で、何を見取り、評価するかという授業マネジメント、主体的な取組は増えたが知識・技能や思考・判断・表現の力の向上に結び付いていないなどの課題も見られた。今後も、生徒のポジティブな言動を引き出し、主体的・対話的な深い学びにつなげるために、今回明らかになった課題に向き合いながら、PBI Sの視点を意識した授業展開を続けていくことが必要である。

また、振り返りシートの活用は、生徒がインプットしたことをアウトプットすることで、実際に使える知識として定着させたり、思いや考えを書いたりすることに役立った。今年度は、各教科の振り返りシートの共有にとどまったため、今後は、振り返りシートの評価方法や、評価項目・記入内容の一部を校内で統一する方向で話し合いをしていきたい。

これからも全教職員がチームとなり、取組を継続していきたい。

## 5 本年度の実績

月	日	教科・領域等	研修・研究の内容
4	2	教科	教科部会①（教科運営案，年間指導計画，教材の選定）
4	3	生徒指導	生徒指導基本方針の確認
4	6	特別支援教育	11組担当者会（生徒理解・配慮事項等）
4	13	教科	教科部会②（評価・評定について）
4	19	全領域	研究推進委員会（研究主題，実施計画等の検討）
4	30	全領域	職員会議（研究についての共通理解）
5	25	教科	教科主任者会①（評価・評定，研究について）
5	下旬	教科	教科部会③（評価・評定，研究について）
6	23	教科	評価・評定の確認，研究に向けての取組の確認
7	5	情報	学校訪問研修①（ロイロノート・スクール基礎研修）
7	16	教科	教科主任者会②（評価・評定，主体的に学習に取り組む態度，振り返りシートについて）
8	24	教科	校内研修①（評価・評定について～事例をもとに～）（資料2） 講師 授業改革推進員 武田 弘文 先生
10	4	全領域	管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問 （授業公開，研究協議，岡山県教育委員会による指導） 指導助言者 岡山県教育委員会 義務教育課 指導主事(学校経営アドバイザー) 石田 隆 先生 指導主事(副参事) 青山 敏之 先生 指導主事(主幹) 濱浪 雅登 先生
10	6	教科	中堅教諭資質向上研修授業公開（英語）

10	22	情報	学校訪問研修②（ロイロノート・スクール授業活用研修）
10	25	全領域	校内研修（オンライン）②「生徒のSOS受け止め研修」（資料3） 講師 中央大学人文科学研究所客員教授 高橋 聡美先生
11	11	教科	初任者研修学校訪問（社会・英語） （授業参観，協議・懇談，諸表簿点検） 指導助言者 倉敷教育センター 指導主幹 池田 真弓 先生 倉敷市教育委員会 学校教育部 指導課 指導主任 浅野 博則 先生 指導主任 杉原 賢一 先生 中堅教諭資質向上研修授業公開（保健体育）
11	15	人権教育	西中学校区人権研修会参加
11	16	人権教育	倉敷市人権教育研究協議会・西地区研究会参加
11	17	教科	中堅教諭資質向上研修授業公開（保健体育）
11	24	全領域	職員会議（研究集録作成へ向けての共通理解）
1	7	教科	教科主任者会③（評価・評定，研究について）
1	中旬	教科	教科部会④（評価・評定，研究について）
1	14	人権教育	倉敷市人権教育研究協議会研究大会参加
2	16	全領域	研究推進委員会（評価・評定の付け方及び研修のまとめと次年度に向けての課題 についての協議）
2	24	教科	校内研修③（研修のまとめ）
3	25	教科	校内研修④（次年度に向けての課題の共有・研究集録の配布）

太字は、授業におけるP B I Sを実施する中でプラスされていたものや、より具体的な支援の内容。

		②：生徒のポジティブな行動を促すための教師の手立て	①：学習活動で生徒にさせる・求めるポジティブ行動	③：生徒のポジティブ行動に対する教師のフィードバック
国語	1年	①数字を答えることに限定する。(支援) ②ノートの書き方指導。(何マス空ける。何行目に書く。何色で書く)(支援) ⇒ <b>生徒間でノートを交換し、書き方の工夫を共有&amp;認め合いをする。</b> ・ <b>工夫のあるノートを印刷して紹介する。</b> ③振り返りシートや問題集の解き方、○付けを工夫している人を紹介する。(向上心) ⇒ <b>返却時に「こんな工夫があったよ」としばしば紹介する。</b> ④互いの作品(作文)を班の中で交換読みする。	①自分の意見を書き込める。友達の見聞きを書き込める。 ②学習の「見える化」を自分で残すことができる。 ③いい取り組みを知ることですぐにすばいよくなるか理解できる。 ④ <b>良かった点を互いに伝える(記入する)ことができる。</b>	①「自分の考えのあしあとをよく残すことができたね」と伝える。 ②「上手にまとめることができたね」と伝える。 ③よくなったなら、さらにその生徒を紹介していく。 ④ <b>「当たり前」のことに注目してしっかり認める。勇気づける。(チャイムの前に全員座ってスタートできたね。音読の時に教科書を両手できちんと持ててくれたね。自分からペアの人に声を掛けることができたね。発表でクラスの皆に届くよう頑張ったね。など)</b>
国語	2年	①・選択肢を与える。(支援) ・間違ってもいいことを伝える。(安心感) ②・思考する時間を十分に確保する。(支援) ・疑問に思うことを発表して共有するように促す。(支援) ⇒ <b>生徒間で教え合う場を設定する。</b> ③原稿を準備しておく。(支援)	①自分の意見を書き込むことができる。 ②多面的・多角的に課題に取り組むことができる。 ③発表が苦手な生徒も発表に参加できる。	①自分の言葉で意見を書き込んだことを認める。 ②いろいろな視点で考えられている生徒を紹介する。 ③前向きにできたことを評価する。
国語	3年	・ノートの下5センチに自由記述欄を設け、そこに授業の気づきなどを書かせる。(スキル習得) ⇒ <b>意欲向上のため、ノート点検の際、生徒の気づきにコメントを付ける。</b>	・自分の意見や振り返りが形にして残せる。	・評価をつけ、うまく下5センチを活用できている生徒のノートを皆に紹介する。
社会	1 3年	①・自分で考える時間を確保する。(支援) ・何について考え、発表するのかを明確にして指示する。(支援) ②まとめを書きやすいめあてを提示する。(支援) ・まとめの書き方について、繰り返し練習させる。(スキル習得) ③ <b>授業でできる努力や工夫の仕方について伝える。(スキル習得)</b>	①グループで自分の意見が言える。 ②めあてに対するまとめを自分の力で書くことができる。 ③ <b>振り返りシートに、分かったことや気が付いたことだけでなく、努力したことや工夫したことも書かせる。</b>	①活発に話し合いをしていたグループを全体の前でほめる。 ②授業の最後やノート点検後に、生徒の考えたまとめのよい部分を全体で紹介する。 ③ <b>授業の最後に、全体的にみんな又は特定の生徒がよく努力していた点を伝える。</b>
数学	1年	・思考する時間を十分に確保する。 ・問題を黒板に書かせる。 ・発表の機会をたくさん与えるために、たくさん発問する。	①多面的・多角的に課題に取り組むことができる。 ②自分の意見を積極的に発表する。	・解答の流れをみんなで確認した後、その生徒の考え方をしっかりほめる。
数学	2年	・思考する時間の確保する。(支援) ・疑問点を発表させる。(支援) ・早く課題ができた生徒を先生役にして教えさせる。	・多面的・多角的に課題に取り組むことができる。	・いろいろな視点で考えられている生徒を紹介する。
数学	3年	・4人組の小グループで課題の答え合わせをさせる。(間違いをだめだととらえず、伸びしろだと考えさせる。)	・生徒が自ら課題に取り組み、自ら学びを調整しようとする。	・各班での意見を紹介する(互いのミスをもメモさせたり、伝え合ったりすることで、今後の学習につなげる。)
理科	1年	・発表、意見を尊重し、生徒の考えを受け止める。 ⇒ <b>全員に自分の考えをもたせる機会を設けたり、生徒の発表にポジティブな返答を行ったりする。</b> ・理科を身近な事象として、とらえることができる。	①グループ活動で、自分の意見が言える。 ②実験の結果を予測し、グループで共有できる。	①生徒の意見や考え方を認める。 ②提示装置やホワイトボードで黒板に提示し、生徒一人ひとりの考え方を紹介する。
理科	2年	①学び合い活動の時間をとる。 ②まとめプリントに記入する時間を十分とり、授業でわかったことを記入させる。	①学び合い活動の中で、教え合い、学び合いをし、理解を深める。 ②理解したことをまとめ、プリントに自分なりにまとめる。(黒板を写すだけではなく)	①学び合いの様子を評価し、認める。 ②まとめプリントを毎回回収し、よい部分などに「good」マークや○をつける。
理科	3年	①観察の時間を十分に確保する。(支援) ②教科書と違ってよいことを伝える。(安心感)	①目の前の現象について、素直に受け止めることができる。 ②現象について、自分の言葉で表現できる。	①現象について、教師と確認し認める。 ②いろいろな視点、気づきを紹介する。
音楽	1 3年	①選択肢を示す。他の生徒の意見を板書する。 ②どうすればよい演奏になるか、たくさん技を教える。 ③教師が渡すときに「どうぞ」と言う。	①自分の考えを書くことができる。 ②よい演奏ができるように、考えながら練習できる。 ③プリントの受け渡し、楽器の受け渡しの時に、「ありがとう」が言える。	①よい意見を次の授業で、紙にまとめたものを配付する。 ②よい演奏をほめる。 <b>よいところ、成長しているところを漠然とした言葉ではなく具体的にほめる。</b> ③クラスで認める。GBカードを渡す。

		②：生徒のポジティブな行動を促すための教師の手立て	①：学習活動で生徒にさせる・求めるポジティブ行動	③：生徒のポジティブ行動に対する教師のフィードバック
美術	1 ～ 3 年	①・できているところを、しっかりほめる。(安心感) ・できていないところに助言する。(支援) ② ・意見に正解がないことを伝える。(安心感) ・発表の仕方を提示する。(支援)	① <b>アドバイスにしたがって</b> 、よいものをつくろうと努力することができる。 ②作品に対して、自分の考えをもったり、意見を言ったりすることができる。	①助言を聞き、それを生かして制作することができたことを認める。 ②自分の感じたことを書いたり、合評することができたりしたことをほめる。
技術・家庭	1 ～ 3 年	①考えをもつ時間や意見を持たせる時間の際に、選択肢を与える。(支援) ②ワークシートの穴うめ番号をふる。(支援) ③考えが持ちづらい生徒や自分の意見に自信がない生徒のために、周りの生徒と話す場面を設ける。(安心感)	①自分の意見を持ち、書き込める。 ②ワークシートへの書き込み状況の把握。 ③周りの生徒との交流と自分の意見を言える。	①手を挙げる、書き込んだ際に認め、称賛する。 ②書き込みに対して認めたり、称賛したりする。 ③交流した生徒をほめる。また、交流した中で、よい意見を出した生徒を生徒から紹介させ、その生徒をほめる。
保健体育	1 年	チーム内で役割分担を行ったり、協力したりすると早いことを伝える。(支援)	チームで自分の意見が言える。	自分の意見を言った人に拍手を送る。チームで立てた作戦の成功例を認める。
保健体育	2 年	① ・選択肢を与える。(支援) ・間違っても恥ずかしいことではないことを伝える。(安心感) ⇒ <b>小集団で意見を言ったり、助言したりする場を設定する。</b> ② ・体育委員が、率先して行動することができるように声掛けをする。(支援) ⇒ <b>まずは体育委員に指示を出す。</b> ・時間や内容について、生徒に明確に伝え、生徒に見通しをもって行動できるようにする。(支援) ③ ・ <b>リーダーの育成や、グループでの発表の場面をつくる。</b> ⇒ <b>まずはリーダーに指示を出し、そこからグループ内に指示するようにする。</b> ⇒ <b>リーダーを中心に試行錯誤する時間を確保する。(支援)</b>	①自分の意見を書き込んだり、発表したりすることができる。 ②時間を守って、行動することができる。 ③ <b>教え合い、学び合いをすることで、多面的・多角的に取り組むことができる。</b>	①自分の言葉で意見を書き込んだり、自分の言葉で発表したりしたことを認める。 ②時間を守ったり、何をするための時間なのかを理解したりしている生徒を認めていく。 ③ ・ <b>話し合いを意欲的に進めているグループを他の生徒に紹介する。</b> ・ <b>各グループの発表のよかったところを生徒に伝える。</b>
保健体育	3 年	① ・間違っても、失敗してもよいことを伝える。(安心感) ・選択肢を与える(支援) ②役割分担をしたり、協力して準備等をする と早いことを伝える。(支援) ③ ・リトルティーチャーをつくる。 ・作戦会議の時間を取り、思考する時間を 純分の確保する。(支援)	①自分の意見や意志を伝えることができる。 ②グループで自分の意見や意志を伝えることができる。 ③教え合い、学び合いをする。多面的・多角的に取り組むことができる。	①自分の言葉で意見を伝えた(伝えようとした)ことを認める。 ②言葉に出して自分の意見を言った人を認め、全体の共有する。 ③リトルティーチャーの動きや教え合う姿を紹介する。
英語	1 年	①発言すること自体に(間違ってもいいので)ポジティブな声掛けをする。 ②会話をつなぐ言葉を日常的に教師が使用し、使い方を伝える。 ③会話に困ったときのリアクションなどを渡しておく。言えた項目に○をつけさせる。	①片言でも英語で話そうとする姿勢。 ②わからなくても「わからない」と言えたり、考えたりしている姿勢を表すリアクション。 ③会話を広げようとする姿勢。	①模範的な姿を共有する。よいグループを例として、発表、映像で見せる。 ②ポイントカード(グループごと)等を使って、目に見えて評価が分かるようにする。 ③リストをチェックし、一人ひとりにできるだけヒントを与えるなど声掛けをする。
英語	2 年	① ・選択肢やヒントを与える。(支援) ・間違ってもいいから、チャレンジする。(安心感) ②思考する時間を十分に確保する。(支援)	①自分の意見を言ったり、書いたりすることができる。 ②多面的・多角的に課題に取り組むことができる。	①自分の意見を言ったり、書いたりしたことを認める。 ②振り返りカードを紹介する。
英語	3 年	① ・間違ってもいいことを伝える。(安心感) ⇒ <b>タブレットを活用しての添削や励まし(口イロノート)をする。</b> ・選択肢を与える。(支援) ⇒ <b>デジタル教科書、クローズドブックでの検索など</b> ②思考する時間を十分に確保する。(支援) ⇒ <b>ノートのまとめ、振り返りの時間を確保</b>	①自分の意見を英語で言ったり、書いたり、言えたりすることができる。 ②多面的・多角的に課題に取り組むことができる。	①自分の意見を英語で言ったり、書いたり、言えたりすることを認める。

#### ④ P B I Sを意識した授業を行って、先生方の変化（授業の工夫）

##### <授業づくり（めあて、まとめ等）の工夫>

- ・課題は何か、何に注目するか、何を調べるかなど、ゴール地点を示すことを意識するようになった。
- ・生徒に今、何を学ばせるかをより強く意識した授業になった。
- ・本時のめあてをより意識して授業するようになった。
- ・生徒の発言や記述に対して、今までより、より一層認める・ほめる回数が増えた。また、生徒の興味を引く導入を考えるようになった。
- ・スモールステップで授業を進めることを意識するようになった。
- ・生徒が主体的に学習に取り組むことができるように、生活に関する課題設定を行うようになった。
- ・振り返りカードの書き方を説明し、より主体的に学ぶことを意識させるようにした。
- ・活動を指示するときに、何を、どのようにすればよいのか、生徒に達成させたいことを意識して説明するようになった。また、生徒の頑張っていることを意図的に全体に伝えることが増えた。

##### <授業の進め方の工夫>

- ・課題に対して、自分で考える時間、学び合いの時間、生徒同士で教え合いをする時間を設定するようになった。また、発表させる機会を増やした。
- ・自分で考えたり、互いの意見を交換したりする時間を十分確保するよう意識した。それにより、生徒一人ひとりの学習の到達度や考え方を見取ることができるようになった。
- ・考える時間をとることで、たくさんの生徒の発表を集め、いろいろな意見を引き出すことができた。深化させた問題を紹介する機会も増えた。
- ・生徒の意見や演奏を発表する場を増やすようになった。
- ・ペアやグループで話し合う機会を与え、相手の理解できたところをお互いに認め、それを取り入れるように声掛けをするようになった。
- ・生徒に自分の意見を言ったり、書いたりする活動を意識して行うことができた。
- ・クロームブックで、互いにコメントを送ったりデジタルグッドビヘイビアカードを書いたりできるように工夫した。

##### <生徒を見る視点の広がり等>

- ・自分の意見を書き込む生徒が増えたことにより、生徒が誤った認識をしていることも確認でき、授業改善につながった。
- ・授業の気づきにより、生徒の理解度が分かる。間違っていて認識していることが発覚することもあるが、反対によく理解し、発展した考えをもっている生徒がいることも分かる。それにより自身の授業改善につながった。
- ・全体を見通して、生徒ごとに目標を変え、感性に導くことができた。
- ・できていない部分ではなく、できている部分や努力が見られる部分、結果だけではなく努力の過程が見られる部分に着目し、勇気づける意識ができた。また、実行できた。
- ・授業を妨害する生徒に注目し、その生徒を注意するのではなく、授業を頑張っている生徒に注目

して指導することができた。

- ・学び合いの時間をとり、分からずに困っている生徒を互いにフォローする中で、生徒の良い面を見取ることができるようになった。
- ・「できる・できない」ではなく、授業の中で頑張っている（頑張ろうとしている）生徒に注目して指導することができた。
- ・前向きに授業に取り組んでいたり、ルールが守れていたりする生徒に目を向けてほめることで、できていない生徒への刺激になった。

#### <授業形態の工夫>

- ・話し合い活動では、3～4人組だけではなく、エキスパート活動やバズセッションなど、いろいろな形態で行うようにした。

#### <ICTの活用>

- ・各自のタブレット端末で地図・写真などを閲覧することによって題材に興味をもたせるようにした。また、グループワークで話し合いすることによって、相手の意見を取り入れ、前向きな姿勢で自分の考えを発表できるようにした。
- ・クロームブックを使用して、ペアで考えさせたり、分からない言葉や表現を検索させたり、主体的に学ぶ姿勢を意識しながら授業ができた。

### ⑤PBI Sを意識した授業を行って、先生方が感じられる生徒の変化

#### <教え合いや学び合いを通して>

- ・生徒同士の意見交換が増えたことで、より主体的に取り組むことができたように感じられた。また、課題に対して工夫する様子が見られた。
- ・グループ活動の時に、自分の意見を言える生徒が増えた。めあてに対する授業のまとめを、上手に書けなくても自分の言葉で書こうとする生徒が増えた。
- ・生徒同士が教え合ったり、意見を交換したりすることが増えたことで、学び合う姿や活気が生まれた。また、単元ごとに、リトルティーチャーを立てて、教え合い・学び合いをしたことで、練習に工夫が見られるようになった。
- ・生徒同士で会話する機会を増やすことによって、片言でも一生懸命話そうとする意欲、相手の言うことを聞こうとする意欲が向上した。
- ・進んでいる生徒が、遅れている生徒に助言することができ、お互い学び合うことができた。
- ・話し合いをする場面を増やしたことで、生徒同士のつながりが増えたように感じる。また、課題に対して、工夫を考えながら解決する様子を見て取ることができた。
- ・自分の意見をもって授業に参加できる生徒が増えた。
- ・話し合い活動の中で、自分の意見を言ったり、友達の意見を参考にしたりするなど主体的に学習に取り組む姿が増えた。
- ・様々な意見を許容する雰囲気が出た。
- ・生徒主体で司会進行ができる機会が増えた
- ・教え合うことで、各自の理解を確認でき、学力の定着を図ることができた。自分の考えを説明したり、発表したりする力が身に付いた。

- ・分からない生徒を見過ごすのではなく、フォローする意識が強まることで、周囲を思いやることができるようになった。
- ・自分の考えをもつことができる生徒やそれを素直に表現できる生徒が増えた。
- ・特に指示を出さなくても、お互いに話し合いをしながら、レポートを書くようになった。
- ・本時のめあてをより意識して、授業に取り組むようになった。
- ・実験などの作業が短時間でできるようになり、考察・レポートを書く時間を確保できるようになった。
- ・知識や情報を聞く（書く）だけの授業から、生徒同士の話し合い、学び合いの場を増やしたことで、生徒自身が発見・思考する、また、互いの意見をもとにした考えの深化が見られた。
- ・なぜそうなるのかと追及した質問をしたときに答えられるようになり、幅が広がったと感じられる。他の生徒を助ける意見を発表したり、疑問点を上げたりすることができるようになった。
- ・自分の考えと友達の考えを比較したり、友達の考えを受け入れたりすることで、生徒の考え方の幅が広がった。
- ・生徒とのコミュニケーションをとる場にもなっている。授業を受けての疑問を書いたり、授業で見聞きしたことを絵や図で表そうとしたりと、プラスに働いている。

#### < I C T機器の使用を通して >

- ・クラウドブックやロイロノートを使用することで、主体的に学習する姿勢が劇的に変化した。
- ・毎時間の振り返りから、題材に興味をもち、主体的な学習が進んだと感じられる生徒が増えた。また、タブレット端末を使用することで、積極的に授業に参加できたと思われる生徒が増加した。
- ・発言が苦手な生徒も選択できるようになった。

#### < その他の活動を通して >

- ・ほめることで、生徒が積極的に活動に取り組むことができた。
- ・メモ欄を活用できている生徒のノートを参考にしてノートをとろうとする生徒が増えた。
- ・振り返りカードを記入することで、自分の学習を調整しようとする生徒が増えた。

## ⑥今後の課題

#### < 振り返りシートの活用 >

- ・ふり返しシートをうまく活用できていない。
- ・振り返りシートとノートの差別化があまりできていない。

#### < I C Tの活用 >

- ・クラウドブックをどこで活用するか。

#### < 授業改善（全体） >

- ・自分の意見を言うときに根拠を明らかにしたり、考えたことを関連付けて説明したりするなど、発表の仕方のレベルアップを図る。
- ・過程を大切にし、深める質問をしていきたい。さらなる教材研究、ICTの上手な活用を行いたい。

- ・ 答えを伝えるだけでなく、解く過程を一人ひとりが確実に理解し、活用できるように指導していきたい。
- ・ 生徒のポジティブな面をどのように評価していくのか、評価基準を明確にする必要がある。
- ・ 発想力を鍛えることが課題。
- ・ 自分よりすぐれている作品をみて、自分で学習する力を身に付ける。
- ・ 自分のこととして、説明を聞くことができ、実行することができる。
- ・ 苦手意識をもっている生徒のやる気の引き出し方。
- ・ 話し合いの場面を単に増やすのではなく、ねらいや目的をより明確にした場面の設定
- ・ 授業のどの場面で、何を見取り、評価するかが課題。
- ・ 板書、プリント学習の時間、ペアやグループワーク、クロームブックの活用頻度のバランスがとれるようにする。

#### < 苦手な生徒や現状に満足している生徒への対応 >

- ・ 興味をもち、主体的な学習が進んだ生徒が多い反面、思考・判断力や表現力を高め、多面的な見方・考え方ができにくい生徒が多く、今後どのように養うかが課題である。
- ・ 答えが合えばよい生徒に対して、いろいろな考え方からの解法の面白さを指導したい。また、自分で考えるのが苦手な生徒に対して、解く過程を正しく進めれば正解するという喜びをさらに味わわせたい。
- ・ 考えることが苦手な生徒への支援。
- ・ 意見交換や話し合いで、自分の考えの発散が難しい生徒（他人の意見を聴く、写すだけの生徒）への指導・支援。
- ・ 意見交換などの学習活動ができない生徒、しない生徒への支援。
- ・ 他人の考えを受け入れられない生徒や他人の間違いを指摘したがる生徒への指導や支援。
- ・ 自分の考えを人前で発表することが苦手な生徒への指導。
- ・ 振り返りカードを学習に反映できていない生徒への指導。

#### < その他の課題 >

- ・ 活動への積極性は増したが、得た知識が定着しているとは言えない。
- ・ 縦と横の連携がないのが課題。何をしているのか不透明。同時に小学校、高校への連携ができれば、もっと生徒にとって効果的な授業の実践ができると期待する。
- ・ 主体的に授業に取り組む生徒は増えたが、知識・技能や思考・判断・表現の力にうまく結びついていない面がある。